

(学) 宮崎総合学院 宮崎ペットワールド専門学校
2024 年度 授業シラバス

授業科目名	動物内科看護学Ⅱ		科目コード	2401031	
開講クラス	動物看護師学科	コース	動物看護師コース	学 年	2年
担当教員	堀脇浩二（非常勤講師）				
	実務経験教員（ ☒ 有・無 ☐) 実務経験内容 獣医師免許。ひかり動物病院院長 現場での症例を事例として授業に取り入れている				
開講時期	前期・後期・ ☒ 通年・特別講義・その他		授業コマ数	30時間	
	☒ 必須・選択・選択必須		単 位 数	1 単位	
使 用 テキスト1	書 名	愛玩動物看護師の教科書 第4巻 臨床動物看護学			
	著 者	緑書房編集部 編			
	出版社	株式会社 緑書房			
使 用 テキスト2	書 名				
	著 者				
	出版社				
参考図書	動物看護実習テキスト				
授業形態	☒ 講義・演習・実習・実験・その他（ ☐ ）				
＜授業の目的・目標＞ 健康な犬猫に必要な日常ケアと適正飼育法を理解し、適正飼育に努めるよう飼い主への指導ができるようになる、また、動物病院における内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、それらの手技、使用する器具、補助する際の注意点について理解する。					
＜授業の概要・授業方針＞ 犬猫の健康の保持・増進のために行うべき日常ケアには何があるかを理解し、正しい方法を修得する。また、動物病院での診療補助に必要な技術の理論を学び、動物内科看護学実習での技術の習得につなげる。					
＜成績基準・評価基準＞ 前期と後期に優・良・可・不可の成績基準を設定する。評価の基準は筆記試験によるものとし、本科目の出席率が80%以上なければ本試験が受験できない。本試験における点数が80～100点を優、70～79点を良、60～69点を可とし、60点未満は追試とする。また、出席率が80%未満の場合も追試となり、80%を満たすまでの時間数の課題に取り組んだのちに追試験を受けることができる。追試においては60～100点を可とする。追試にて60点未満の場合は不可となる。					
＜使用問題集・注意事項＞					
＜授業時間外に必要な学修内容、関連科目、他＞ 動物内科看護学実習Ⅰ、Ⅱ					

授業科目名		動物内科看護学Ⅱ
回	授 業 内 容	備 考
1	動物内科看護学Ⅰ復習	
2	第3章 検査・処置に必要な技術 1 注射器の取り扱いおよび管理方法 (p 43) 2 採尿の目的と方法 (p 45)	
3	第3章 検査・処置に必要な技術 3 穿刺と吸引 (p 46) 4 酸素吸入 (p 48)	
4	第3章 検査・処置に必要な技術 5 マイクロチップの装着 (p 49)	
5	第4章 投薬にかかわる技術 1 薬の処方 (p 52) 2 経口投与薬の使用法 (p 53)	
6	第4章 投薬にかかわる技術 3 外用薬の使用法, 薬浴の実施法 (p 54) 4 投薬前後の注意事項 (p 56)	
7	第5章 採血と注射および静脈内留置にかかわる技術 1 採血・注射時の保定法 (p 58)	
8	↓	
9	第5章 採血と注射および静脈内留置にかかわる技術 2 静脈採血 (p 60)	
10	↓	
11	第5章 採血と注射および静脈内留置にかかわる技術 3 動脈採血 (p 64) 4 薬物などの注射 (p 65)	
12	第5章 採血と注射および静脈内留置にかかわる技術 5 留置針の留置 (p 67) 6 その他の投与方法 (p 70)	
13	第6章 輸液管理 1 輸液をはじめる前に (p 71)	
14	第6章 輸液管理 2 輸液製剤の準備 (p 72)	
15	前期復習	
16	第6章 輸液管理 3 輸液量の決定 (p 75)	
17	第6章 輸液管理 4 準備するもの (p 76)	
18	第6章 輸液管理 5 留置針装着 (p 78)	
19	第6章 輸液管理 6 輸液の準備 (p 78)	
20	第6章 輸液管理 7 輸液中の管理 (p 79) 8 輸液の注意点 (p 80)	
21	第7章 輸血療法 1 輸血療法の目的と現状 (p 81) 2 輸血計画とインフォームド・コンセント (p 82)	

22	第 7 章 輸血療法 3 輸血用血液の確保と各種検査 (p 83)	
23	第 7 章 輸血療法 4 輸血の準備 (p 88) 5 輸血中の看護 (p 91)	
24	第 8 章 心電図検査および血圧測定 1 心電図検査 (p 93)	
25	第 8 章 心電図検査および血圧測定 2 血圧測定 (p 107)	
26	第 9 章 X 線検査および CT・MRI 検査 1 X 線検査 (p 113)	
27	↓	
28	↓	
29	↓	
30	後期まとめ	